

10・5 理系女子学生のためのキャリアアップセミナー

「どうありたい」モチベーションと意識改革

参加者は女性限定という目新しい「理系女子学生のためのキャリアアップセミナー」が10月5日、後楽園キャンパスで開かれた。「これからの日本の会社を変えるためには、あなたたち一人ひとりの意識改革からなのです」そんな言葉が印象的な、理系女子学生の社会進出に希望を与えてくれる講演会だった。

学生記者 橋本奈緒美（大学院理工学研究科応用化学専攻修士1年）

育てる側にも女性を

3号館の会場には、約50人が集まった。高校生や社会人の姿も。すべて女性という、理系の大学ではありえない会場風景で、わが理工学部にこんなに女性がいたのかと思うほどだった。

講師もみな女性である。最初の講演は國井秀子さん。リコー常務執行役員、ソフトウェア研究開発部長の要職にある。

國井さんは自身の業務経験を通して、「育てる側」に女性加わることで大切だという。

「女性が社会の中心の中に入って進めていこうとする場合、人を育てる側」に女性がいないと女性が育たないのです。そのためには、女性

も積極的に責任のある仕事に手をあげる必要があるのです。同じ能力を持つ男女を比べた場合、男性の方が自信を持っている傾向がある。男性は家族を養わなければならないなどのプレッシャーがある一方、女性にはいろいろな選択肢があるため、そこまで仕事に執着心が無い。その点で男性より劣ってしまうのだと思うのです。まずは経験を多く積むこと、そしていい方向に考えるという意識改革からです」

國井さんはアメリカに8年間滞在。多くの女性が活躍しているのを目の当たりにした。日本では女性が活躍している場に出会うことはまだまだ少ない。まずは意識改革が大事、と指摘した。

目標への意欲

2番目の講師は末吉恵美さん。NTTドコモプロダクト&サービス本部マルチメディアサービス部勤務。2年前に中央大学大学院理工学研究科経営システム工学科を卒業したばかり。今回の講演者の中で最も歳の近い先輩である（研究室には知り合いの院生や学生も多く、親しげに歓談の光景も）。

現在、末吉さんは携帯のテロップ（画面下に流れるニュースなど

の文字情報）に関わる仕事やキッズ携帯の企画をしているという。

「中央大学のこの学科に入ったのは、ほんとに些細なきっかけだったんです。まだはつきり覚えていますが、高校2年のときに見た新幹線の広告で、『人間工学に基づいた……』というイスの宣伝コピーが目にとまったんです。もともと人の生活に密着した分野で仕事したいと思っていま



したので、この『人間工学』にこだわり、経シスに進学することになりました。

大学3年の秋ころから就職活動が始まりましたが、実際に活動してみても、学部生の私には、『やりたいです』としか言えなかった。『私にはこれができる』が言えなかったん

です。気合いしか主張することができなかつた。そこでもう少し人間工学について何かこの研究室でできないかと先生と相談し、まだこの研究室に残ってやるかあると考え、大学院進学を決めたのです」

と振り返った。そして、こうアドバイスする。



“同世代” 感覚で体験を語る末吉恵美さん

「大学院生としての生活を通して学んだことは、『何かやりたい』という気持ちを常に持つことが大切だということだと思います。『こうしたい』という思いが常になると、モチベーションが下がってしまうんですね。これは社会に出てからも同じです。常に『こうありたい』という気持ちをしつかり持つことが、自分のやる気も引き出し、いい方向に導いてくれるのだと思います」

3番目は安藤英里

子さん。日立製作所システム開発研究所に勤務している。

九州大学の数学科卒。現在は「移動体（車など）に関する新しいシステムにおけるセキュリティ方式の研究開発」というテーマで仕事をしているそうだ。

「私の場合は、数学科を出ていますが、卒業論文のテーマがかなり工学よりの内容だったんですね。これが私の人生の転機になって今の仕事につながっています」

今問題になっていることに対して解決策を見つけ、それを実践していくという、現場の人間でないと分からないにいく実際の流れや動きなどを丁寧に説明した。会社とはこういうものなのか、と納得した人も多かっただろう。

男の現場でも

最後の笹尾圭哉さんは中日本建設コンサルタント東京支社技術部主任技師・担当課長。中央大学理工学部土木工学科卒。下水道関係の仕事だという。

「この世界は男の社会だと思われていますが、そんな中でも女性で活

躍している人もいます。私は仕事に誇りを持っています」

と語り、女性技術者の仲間を作ることも大切だと強調した。

× ×
今回の講演者はそれぞれの分野の第一線で活躍している女性。多分野で女性が活躍しているのだなと気づかせてくれる講演だった。

講演会後にはティータイムがあり、講演者とも話すことができ、とても貴重な経験になった。また、普段の生活ではなかなか話す機会のない他学科の修士院生とも今後の将来について熱く語ることができ、数少ない理系女子学生の交流の場として大いに活用させてもらった。男子にまぎれて普段はよく見えない私たちも、一堂に集まるとこんなにも心強いものかと、安心感さえ覚えたものである。まだまだ日本では理系の女性が活躍している場を見ることは少ない。理系に進んだ女子学生が今後社会に出てやっていけるのだろうかと不安に思うこともあるが、このような機会を通じて同じ道を進む仲間を作り、共にがんばっていけるような環境を作る重要さを痛感した。